専門家に聞いてみよう vol.1

「障がい者を取り巻く現状と職場での接し方について」

社会福祉法人太陽の家　就労事業部 就労移行課長
精神保健福祉士・社会福祉士　　奥武あかねさん

＊＊＊

「専門知識は必要ありません。 寄り添う気持ちさえあれば、 それが障がい者のサポートをしているという事なんですよ。」そう語るのは、精神福祉士・社会福祉士の奥武あかねさん。 私たちにとって、 障がい者と接すること、そして本当の意味でのサポートとは何なのかをお聞きしました。

＊＊＊

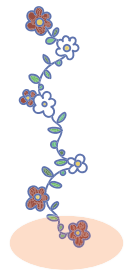
■大分県の現状■

大分県は50年以上前から「太陽の家」があるので身体障がい者の方の働くモデルは他県より多かったと思います。現在も身体障がい者の雇用率は全国上位ですが、精神や知的障がいに関しては平均的な数字だと思います。また、大分県だけでなく全国的に精神障がい者の方が増えてきています。

今、ここへ通う人たちも精神障がい（発達障がいを含む）の方が大多数を占めており8割が高校、専門学校の新卒の方です。また大学進学や就職できなかった人、また就職はできたけどすぐに離職となった方たちです。大分県は高卒の就職率は99％以上と高いのですが離職率の問題が大きく、その半数が3年以内に離職しています。また就職面接で何社受けても内定をもらえないなど、そういう壁にぶつかった場面で「自分は病気なのでは?」と悩み始める人も多いです。これは全国的にも多い事例です。ここでも今までは健常者として生きてきたけど、予定外に「障がい者」となり訓練をしている方がたくさんいます。

■若年層の障がい者が増えている理由■

そのような現状から、今は若年層の障がい者が増加傾向にあります。その大きな理由として、親切すぎる教育の影響があるのではと感じます。昔は学校の先生の言う事を聞くように育ちましたが、今は人権の問題や合理的配慮などを理由に、少し不安を感じる子どもに対し過剰なケアを重ねている学校が多いのではないでしょうか。だから心がたくましく育たずに、世の中に出て少しつまずいただけで大ケガになってしまう方が増えているように思います。一般的にいう合理的配慮とは、とにかく学校を卒業させる事が目的になってしまいがちで、その子が社会に出てどう歩くかまでが目的になりづらくケガをしやすくなっています。その結果が、障がい者の離職にも繋がっているのではないかと私は感じています。

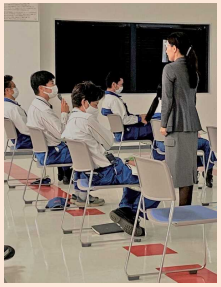


■障害者手帳を持つということ■

障がいのある方は皆、「障害者手帳」を持っていると思っている方が多いかもしれませんが、そうではありません。私たちがサポートしている利用者さんたちも、障害者手帳を持って生きるのか否かを判断することから訓練は始まります。手帳の発行は病気の重さでなく、継続的な治療が必要かどうかという点が大きなポイント。自分が障がい者として生きるのか、病状を伏せて健常者として生きるのかは自分で決めなければなりません。ただ伏せて生きることは容易ではありません。そこには「障がい者になんてなりたくない」「手帳なんて」と、本人自身が障がい者を否定しているケースも多くあるんですね。でもその考えから無理をし、病状を悪化させることが多くあるので自己判断だけではなく病院や私たちのような関係機関を頼りながら、自分の病状や生活スタイルなどを把握することは大切なことだと思っています。

■本当の〝障がい者サポート〟とは■

私は障がい者理解のための企業向け講座や採用のサポートなども行なっていますが、いつも伝えるのは「普通に接していればいい」ということです。私たちサポート側が、その人の病気のことばかりを気にして机上の勉強だけをするのは違います。障がいのある方は決して特別な生き方をする人ではなく、普通に接することができれば普通に心は通じるんですね。変に気を使わずに、何でも本人に聞いて教えてもらうことが大事です。健常者の方にも必ず不安や困りごとはあると思います。その延長線上に「障がい者」と言われる人たちの不安や困り事があるのだと理解できれば、心から寄り添うことができるはずです。障がい者のサポートとひと言に言っても、サポートする側がバージョンアップすればもっとスムーズにサポートできるのだと私は思っています。専門知識は必要ありません、気持ちひとつで十分です。「私、あなたのこと知りたいんだけど」ひと言伝えるだけで、それが最高のサポートの始まりになると思います。



奥武さんの出前講座の様子

■障がい者へのサポートポイント■

●知的障がい●

接するときの言葉の長さに気をつけて話してほしいです。 良いことと悪いことをシンプルな言葉で短く伝えることがポイントです。 また人の裏の感情が読みにくい人もいるので、 褒めているときは「笑顔」、 注意する時は「真剣な顔」と表情もわかりやすく示すことで伝わりやすいと思います。

●精神障がい（発達障がい）●

その人の障がいについて、 本やインターネットで調べるのではなく、 先ずは心を通わせてその人の状態を教えてもらうことを大事にして下さい。 そしてサポートする側も出来る、 出来ないの判断を伝えることも大事。 何でもサポートすることで、結果的に自力でできることが少なくなることもあります。 職場では社会人として接するのがマナーです。 また必要なことは、 しっかりと言葉で伝え合うことが大切です。

●身体障がい●

目に見える障がいと見えない障がいでは全く変わってきます。 目に見える場合はバリアフリーやハード面で対応できますが、 難しいのは目に見えないケース。内部疾患や難病など理由は様々ですが、 こちらが配慮しにくい障がいの方は周りに理解してもらうのが難しいので、 とにかく沢山話を聞く姿勢が大切です。目の見え方、 耳の聞こえ方など興味を持って接してみて下さい。

http://www.taiyonoie.or.jp
社会福祉法人 太陽の家　〒874-0011　別府市大字内竈 1393-2　☎0977-66-0277
大分事業所　〒870-0022　大分市大手町 2-3-17　☎097-513-5430